

奈良市地域子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」の現状と課題

Current Status and Issues of Nara City Child Raise Support Center Yumenooka SAHO

別所 崇 和田 公子¹ 大東 恭世¹
BESSHO Takashi WADA Kimiko OHIGASHI Yasuyo

キーワード：子育て支援，奈良市，地域子育て支援事業，短期大学との連携，学生の学びの場

Key Words：Child Care Support, Nara City, Regional Child Raise Support, Collaboration with Junior College, Learning Place of College Student

1. はじめに

2009年11月に奈良市の委託を受けた子育て支援センターが、奈良佐保短期大学内に「奈良市地域子育て支援センターゆめの丘 SAHO」（以下、「ゆめの丘」という）として開設されて2018年で9年になる。2018年4月現在、奈良市では子育て支援センター7か所、つどいの広場6か所、子育てスポットすくすく広場4か所、児童館子育て広場4か所、子育てスポット27か所と子育て支援施設が48か所あり、そのほかに母親たちの自主運営の子育てサークルが地域で運営されるなど、「ゆめの丘」の開設当時に比べると子育て支援施設が格段に整備されてきている。子育て支援施設数の拡充に伴い、「ゆめの丘」の利用者は年々減少するとともに、利用形態や利用者に求められる支援が多様化している。開設10年の節目を前に地域の子育て、親育ちに必要な支援の在り方とは何かを求めながら、「ゆめの丘」が取り組んでいること、そして奈良佐保短期大学（以下、本学という）教員による各種相談業務と、学生の学びの場としての機能など「ゆめの丘」と本学の連携について報告する。

2. 「ゆめの丘」の現状

2-1 利用者数の現状

利用者の減少はここ数年間で顕著である（図1）。要因としては、奈良県の合計特殊出生率は1.33で全国ワースト5位（全国平均1.43）¹⁾であることに示されるよう少子化が進んでいることや、奈良市立こども園の新設・統合^{注1)}、私立幼稚園の2歳児保育が開始されたこと、母親の就労など様々な要因が挙げられる。また「はじめに」で述べた奈良市における子育て支援施設数の拡充も利用者数減少の要因であることが考えられる。

「ゆめの丘」における利用者の減少要因として考えられることは、「ゆめの丘」が奈良市東部に位置し、近隣に子育て世代が少ない地域でもあること、そのため利用者のほとんどが校区（都南中学校区）外に居住しており、駐車場は完備されているものの、車での来所が困難な利用者にとっては交通の便が良くないため利用しにくいというマイナス面が挙げられる。また、校区内に市立幼稚園と市立保育所が各2か所、市立幼稚園と市立保育所が統合された市立こども園（幼保連携型認定こども園）が2か所あり、校区内の保育ニーズは満たされており、3歳未満児や3歳児の利用者が少ない要因の一つにもなっている。しかし奈良市内の隅々まで開設された子育て支援施設の中から、利用者が地の利だけでなく、居心地がいい等様々な理由から校区外の「ゆめの丘」を利用する親子のように、利用したい子育て支援施設を選択して利用できることは、大変望ましいことである。

¹奈良市地域子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」
Regional Child Raise Support Center Yumenooka SAHO, Nara City

また利用者減の状況にある今、子育て支援施設の運営者は、必要な支援が提供できているのか、子育て支援施設が飽和状態になっていないかなど、改めて支援の在り方と存在意味を考えなければならないと痛感する。その反面、開設当初には利用者が多く、一人ひとりとゆったりと向き合えなかったが、利用者が少ない現在は、時間や他の利用者を気にせず利用者とのコミュニケーションがとれるようになった。そのため、利用者とスタッフが何気ない会話をする中で、日頃の悩みや困っていることなどが話しやすくなり、相談を受けることやアドバイスをすることも多くなっている。このことは、利用者数の減少によって図らずも、一人ひとりきめ細やかで丁寧な子育て支援が提供できるようになったというプラス要因だと捉えている。

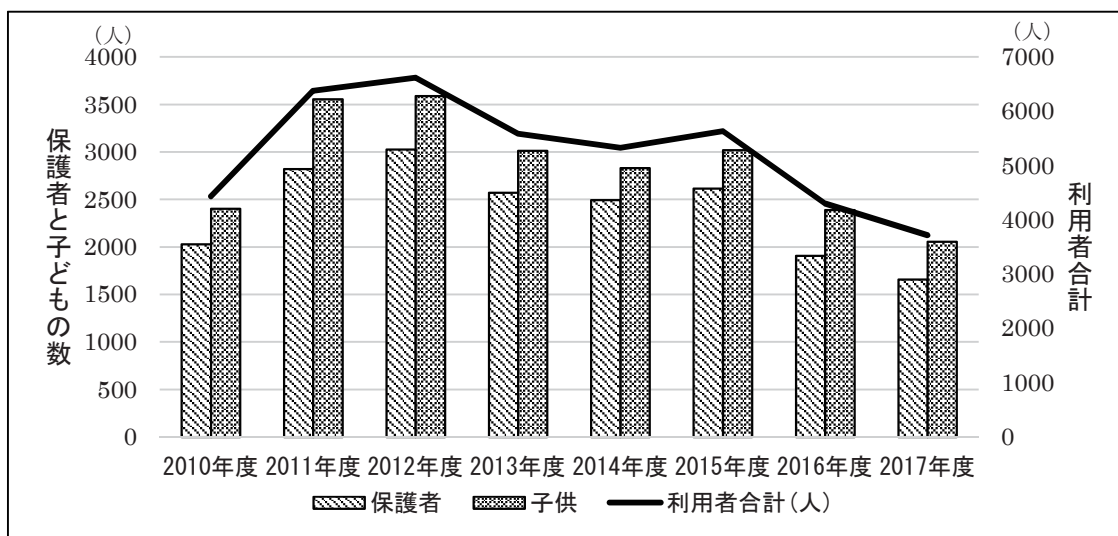


図1 「ゆめの丘」利用者数の推移

2-2 相談数や内容の現状

表1は、2014年度から2018年度（10月まで）の相談件数の推移である。開設当時はネグレクトと思われる虐待事案や、重篤な発達相談があったが、近年は他の機関につなぐような相談内容はほとんどない。これは、奈良市健康増進課や発達センターでの相談業務や保健師による「こんにちは赤ちゃん訪問（乳児家庭全戸訪問事業）」での個別相談、発達支援施設の充実などによると考えられるが、埋もれている相談事案もあるのではないかと危惧している。

表1 「ゆめの丘」相談件数の推移

区分	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	件数	件数	件数	件数	件数
育児方法	65	38	40	30	30
食事	30	35	26	23	11
睡眠	3	3	1	2	0
病気	5	6	0	7	3
発育	13	9	4	5	0
発達	32	37	28	27	4
教育・進路	18	7	6	6	6
家庭状況	7	4	12	4	1
その他	10	11	12	16	14
合計	183	150	129	120	69

※2018年度は10月まで

相談内容は、「育児方法」についての相談が多く、スタッフは困っている利用者共感しつつも、子どもの成長の姿とも考えられることを話し、対処の方法を共に話し合っている。次いで多いのは「発達」についての相談で、言葉に関することや乳幼児期の特性と思われる行動などである。これらについては、相談や子育てに悩みがあって来所される利用者がある反面、スタッフとの何気ない会話の中で話し出される場合も多い。大抵は利用者の話を傾聴することで、ほっとされることが多く「聞いてもらって嬉しかった」「安心しました」などの声が聞かれ、「ゆめの丘」は日ごろの何気ない悩みや不安を吐露する場になっている。相談する人がいない、聞いてもらう機会がない、他所で相談したが納得できる対応がないなど、「ゆめの丘」で相談を受ける理由は様々だが、内容は軽微な内容がほとんどである。また、利用者自身から相談を持ちかける機会も少なくなっている。子育ての情報が氾濫し、迷うこともあるが、SNSの書き込みなどを見て「私だけではない」と思えることや、子育て支援施設数の拡充に伴い、相談を受ける場所が多くなっていることも要因かもしれない。いずれにしても、「ゆめの丘」においては、内容が軽微であっても、聞いてもらいたいと思う利用者の気持ちを敏感に受け止め、子育ての悩みや不安に耳を傾けている。

2-3 「ゆめの丘」への子育てコーディネーター配置

平成24年8月に成立した「子ども・子育て支援法第59条第1号」^{注2)}に基づき「利用者支援事業」が実施された。「利用者支援事業実施要綱」では、その事業の目的を「一人一人の子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与するため、子ども及びその保護者等、または妊娠している方がその選択に基づき、教育・保育・保健その他の子育て支援を円滑に利用できるよう、必要な支援を行うことを目的とする」²⁾と定めている。またその事業内容は、「子ども又はその保護者の身近な場所で、教育・保育・保健その他の子育て支援の情報提供及び必要に応じ相談・助言等を行うとともに、関係機関との連絡・調整等を実施する事業」²⁾とされている。

「利用者支援事業」においては、特定の研修を受講した「子育て支援員」を1事業所に対して1名以上配置することが定められており、奈良市ではこれを「子育てコーディネーター」と呼称して配置している。平成30(2018)年度から、奈良市に7か所ある子育て支援センター全てに「子育てコーディネーター」の配置が指示された。「ゆめの丘」では、これをセンター長の和田が兼務することになった。

「ゆめの丘」では、週3日「子育てコーディネーター」の業務を行っている。相談内容については相談業務日誌(付表1)とは別に個別相談シート(付表2)を用いて記録し、内容によっては関係機関につないでいる。また、奈良市子育て育成課では、子育て支援センター7か所に配置されているコーディネーターの連絡会議を毎月1回開催しており、相談業務の内容や課題、今後の方向性など、情報交換及び研修を行っている。

3. 利用者アンケートの実施と利用の実態

「ゆめの丘」利用者の属性、満足度や期待する事業を調査することにより、今後の「ゆめの丘」のあり方について検討するために、2018年9月～10月に利用者アンケートを実施した。利用者に対しては、集計結果を奈良佐保短期大学研究紀要に掲載すること、回答内容は純粋な統計データとして使用すること、その際には個人情報について開示されることはないこと、の3点を書面で提示した上、口頭で説明し、了承を得た方のみ本稿のデータとして使用した。その結果、53名の利用者から回答があった。

3-1 利用児の低年齢化と利用時間の短縮

開設当時から数年は、数組の友達親子で長時間「ゆめの丘」で過ごす利用者も少なくなく、「ゆめの丘」で食事をしたりおやつを食べたりと賑やかな姿が多かった。最近の利用者は、とても穏やかにゆったりと過ごしている方がほとんどである。このことは、単独で利用する親子が多くなったこと、利用する子どもの年齢が低くなったことによる変化と考えられる(図2)。最近では、今回実施したアンケート結果においても、2歳児までの利用が66.3%、0、1歳児の利用が42.2%であり、「ゆめの丘」を利用する利用者が、生後3か月児位から2歳

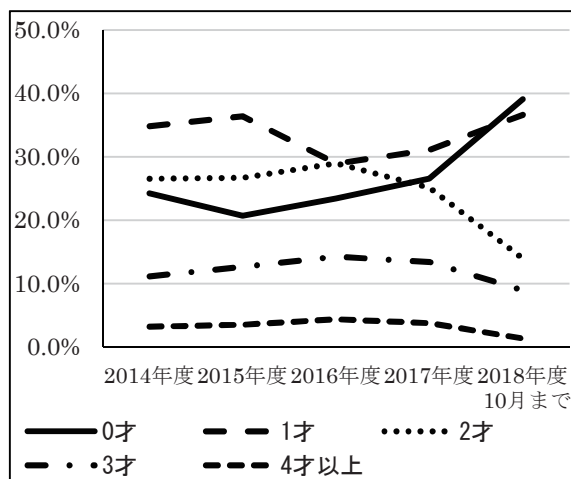


図2 「ゆめの丘」利用児の年齢割合

位までの乳幼児がほとんどを占める日も少なくない(表2)。乳児が自分から動くのは、「はいはい」ができるようになるおおむね7か月位からである。これより小さい乳児の遊びや関わりは単調になり、スタッフが話しかけたり、利用者同士で会話したりして過ごし、1～2時間くらいの滞在で帰宅することが多くなっている。今回実施したアンケート結果においても、1時間～2時間くらいの利用時間が58.5%を占めている(表3)。1歳前後の乳幼児からいろいろな遊びや遊具に好奇心をもつようになるが、3歳以上の幼児のように長続きしないので、やはり、この年齢も短時間の利用となる。このことから、利用者の

表2 「ゆめの丘」利用児の年齢構成

年齢	人数	割合
0歳児	19人	22.9%
1歳児	16人	19.3%
2歳児	20人	24.1%
3歳児	12人	14.5%
4歳児	7人	8.4%
その他	9人	10.8%
合計	83人	100.0%

表3 「ゆめの丘」の利用時間

利用時間	人数	割合
1時間くらい	9人	17.0%
2時間くらい	22人	41.5%
3時間くらい	11人	20.8%
4時間くらい	8人	15.1%
5時間くらい	1人	1.9%
無回答	2人	3.8%
合計	53人	100.0%

年齢の変化が、利用時間の短縮化につながっているように考えられる。

また、「ゆめの丘」を利用する親からは、子どもが乳児の間は話し相手もなく、一日中子どもと家に閉じこもって気持ちがふさぐという声を聞く。利用者アンケート結果においても、子育て中、一番しんどいと思ったことを尋ねたところ、一番しんどい時期が、「6か月未満である」と18名(34.0%)が回答しており、続いて「2歳」がしんどい時期であると10名(18.9%)が回答している。アンケート調査時の調査対象者の子どもの年齢が一定ではなく成長過程であるため一概には言えないが、子どもの年齢に関わらず、6か月未満や2歳の時期を挙げる利用者が多かったことが分かる。

また6か月未満では、「未経験のため、何もわからなかった」「授乳間隔や生活リズムなど色々自分で調べて決めていたが、本当にそれでいいのか不安にもなるし、寝不足だし体力的にもきつくしんどかったように思う」等、初めての育児に不安を感じていることが分かった。その対処法として、「周囲の家族や友人に相談した」等身近にいる人である家族や友人に相談していることが分かる。

さらに、1歳ごろからは、「体力がついて寝なくなったこと」、2歳ごろからは、「下の子がお腹に居て、上の子がいよいよ期であったこと」など子どもの発達に伴う親の関わり方に苦慮していることが伺える。対処法として、「ゆめの丘にきて、昼間は遊ばせてもらって体力を使って夜寝るようになった」「実家に行ったり、子育て支援センターをよく利用しました」等、実家や「ゆめの丘」を利用する等、自宅から出かけることで親子とも気分転換を図ったり、生活に変化をつけて子どもと過ごす時間を上手にやりくりしていることが伺える。

ゆめの丘スタッフは、利用者の気持ちに寄り添いながら、子育てが楽しいだけではないことに共感しつつ、乗り越えつつある今を励まし、認めながら、利用者に対し、適切な声掛けや、関わり方を心がけている。育児に対する母親の悩みに耳を傾けられるスタッフであるために、近年の利用児の年齢層における発達や特性を理解するとともに、日々研修や会議で共

通理解し、スタッフ間での意見交換や情報収集を行っている。

3-2 「ゆめの丘」利用のきっかけにみる利用者の思い

表4は、「ゆめの丘」利用のきっかけを尋ねた回答結果である。「車で行けるから」「家が近いから」と上位2つにアクセスのよさがあがっているが、車での来所が可能な方・近隣の居住者の方以外のアクセスについては、2-1で示したように、交通の便が良くないため利用しにくいというのが「ゆめの丘」の課題でもある。

続いて、「居心地がいいから」「スタッフが話を聞いてくれるから」等「ゆめの丘」を利用する利用者が居心地の良さを理由に多く挙げていることが分かる。このことは、「友だちが勧めてくれたから」、その他の回答での「子ども本人が行きたいと言うから」「遊びの環境が整い、スタッフの方が気さくに話をしてくれると聞いたから」等の記述からも読み取れる。

また、「広いから」「戸外でも遊べるから」「レストランが利用できるから」「専門の先生に相談できるから」の項目については、「ゆめの丘」開設以来の利点として、現在も利用者の方に周知されていることが分かる。

その他の回答については、以下の通りである。

- ・木のおもちゃがたくさんあり、遊ばせたいと思った。(2名)
- ・子ども本人が行きたいと言うから。(2名)
- ・玩具が充実している。(2名)
- ・遊びの環境が整い、スタッフの方が気さくに話をしてくれると聞いたから。
- ・奈良には知り合いがいないから、子どもが他の子と触れ合える場に行きたかったから。
- ・子どもが気に入っているから。
- ・入園前に沢山の子ともと遊べる。家では遊べないから。
- ・気楽。

表4 「ゆめの丘」利用のきっかけ（複数回答） n=53

	人数	割合
車で行けるから	33人	62.3%
居心地がいいから	30人	56.6%
家が近いから	22人	41.5%
スタッフが話を聞いてくれるから	21人	39.6%
広いから	21人	39.6%
戸外でも遊べるから	19人	35.8%
イベントに参加したいから	16人	30.2%
レストランが利用できるから	13人	24.5%
友だちが勧めてくれたから	10人	18.9%
専門の先生に相談できるから	7人	13.2%
何となく	1人	1.9%
その他	11人	20.8%

3-3 「ゆめの丘」利用の感想

利用者アンケートで、「ゆめの丘」を実際に利用した感想を尋ねたところ、「良かった」96.2%「まあまあ良かった」3.8%との回答で、高評価であった。また利用して良いと感じたこととして（複数回答）、「子どもとゆっくり過ごせる」86.8%、「安全・安心して遊ばせられる」86.8%という回答が多く、そのほかに「色々な遊具がある」58.5%、「戸外で遊べる」37.7%など、多様な子どもの遊びができることやイベントが挙げられた。また、「スタッフと話ができる」58.8%、「スタッフが遊んでくれる」67.9%、「相談しやすいスタッフがいる」35.8%などスタッフの対応の良さを挙げる回答が多く挙げられた。さらに、利用者アンケートで「良かった、まあまあ良かった」と回答のあった利用者にも具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、「遊びと環境」「スタッフ」「イベント」等の良さを挙げる回答が多く見られた（付表3）。

4. 「ゆめの丘」の子育て支援の在り方と目指すもの

「ゆめの丘」は、開設当時から、「環境を活かした子育て支援の取り組みを行う」「交流の場としての機能を重視する」「子育ての総合相談窓口となる」「父親支援への取り組みを行う」「地域の拠点づくりを行う」「つどいの広場との連携・支援を行う」を掲げており、継続して実施している³⁾。なかでも「ゆめの丘」においてスタッフが重点的に取り組んでいることを以下に示す。

4-1 環境を活かした子育て支援の取り組み

(1) 親育ちは子どもの育ちから

「ゆめの丘」においては、子どもたちに十分な遊びの時間と安全・安心な遊び場の提供をしたいと考えている。遊具の量や種類、材質、安全で年齢にあった魅力的な遊具を置くことは当然であるが、それ以上に、「ゆめの丘」においては、「遊び」を通じた親子の関わりを大切にしたいと考えている。遊びは乳幼児期にとって人格形成の基礎となる様々な経験を重ねていくために欠かせないものである。しかし、この時期の発達に遊びが不可欠なことに認識していない親も多い。子どもの遊びに関心を示さず、子どもの様子を見ようとしめないこともある。「楽しそうですね」「好奇心旺盛でたくましいですね」「よく遊べますね」と子どもの行動や遊びの姿を肯定的に親に伝えることで、親は子どもの遊びに関心を寄せてくる。子どもが遊びの中で瞬間的に見せる表情やしぐさの中に、成長の兆しが見えることも少なくない。子どもがふと見せる表情や視線の先を見逃さず、子どもの興味・関心に沿った遊びや遊具の提案・提供をする。親が子どもの好きな遊びと一緒に楽しむことで、わが子の成長を感じ、子育ての喜びを味わうことにつながると考える。

3-3「ゆめの丘」利用の感想で、「良かった、まあまあ良かった」と回答のあった利用者に具体的な内容を自由記述で尋ねたところ、「アットホームな感じで、子どもも場所見知りすることなく、手づくりおもちゃなどでも興味を持って遊んでいて、遊びの幅も増えたこと」「普段、子どもとどのように遊んだらいいか悩んでいたが、こちらでいろいろな遊びや歌を教えていただいているので、家でも参考に子どもと遊んでいます」「子どもの遊びを制止しなくてもよく、のびのび遊ばせられる雰囲気がある」、「家ではテレビやビデオをつけてしまいがちだけど、ここではのびのびと遊んでいる姿を見ることが出来て嬉しかった」「広くてきれいで安心して子どもを遊ばせられる」等の記述があり、「ゆめの丘」における「遊びと環境」の良さを挙げる回答が多くあった。この記述からは、「ゆめの丘」を利用者が子どもを安心して遊ばせることができる場と捉え、「ゆめの丘」を利用することで、発達に合った子どもの遊びや子どもとの関わりを体験していることが伺える。

また、利用者アンケートの「ゆめの丘」利用に対する自由記述の中で、「家の保育環境が不十分で私自身がいつもストレスを感じています。ここへ来ると遊ばせられるし、家をこんな風に整えてあげたい。がんばろうと思えます」「娘がのびのびと好きな遊びをしながら、笑顔を見せていることが私にとってもストレスなく居られてとても居心地がいいです」等の回答からは、利用者が、子どもの小さな育ちを感じることで子育ての喜びを感じ、親であることの喜びも味わっている様子が伺える。親育ちは、子どもの小さな成長を親が感じた時にこそ子育ての喜びを味わい、親としての自己肯定感が培われるものと考えている。今後も継続して安心・安全で充実した「遊び」の環境の提供や、「遊び」を通じた親子の関わりを重視した支援に取り組みたい。

(2) 利用者とスタッフの横並びの支援、相談体制

利用者アンケート「ゆめの丘」利用に対する自由記述においては、「近くに親しい友だちなどもおらず、毎日家で過ごすことが多かったときにいつも行くと笑顔で迎えてくれました。他の施設と違い、子どもとよく遊んでくれ名前を覚えてくれたことがとても嬉しかったです」「子育てで少し行き詰っている時に、話を聞いてもらって楽になった。悩んでいることを話すとすっきりした」「地元を離れての子育てなので、一緒

に子どもたちを見守って下さるスタッフの存在が心強い」等、「ゆめの丘」の居心地の良さやスタッフの対応の良さを挙げる回答が多かった。

「ゆめの丘」は、幼稚園・保育園のような毎日通園する施設ではなく、保護者（主に母親）が利用しようとする何らかの動機や目的をもって来所する施設である。だからこそ、二度目以降の来所は嬉しくもあり、気持ちの引き締まる瞬間でもある。子と親、子とスタッフ、親とスタッフの三者のほど良い距離感を模索しつつ、何気ない会話や表情から利用者一人ひとりへの関わり方をスタッフは、一生懸命探っている。それぞれの利用者にとって安心感のある居心地の良い場所でありたいと思う。その反面、利用者アンケートの「改善してほしいこと」の自由記述には、「子どもをほったらかしにして、ママ同士の会話に夢中になり、子ども同士がトラブルになっても対応していないママがいる」等の意見があり、この場合、その都度、スタッフが介在することにより注意喚起するようにしている。このような場面に出くわす度に、母親が受け身に慣れてしまい、母親の自主性を奪っていないか、子育ての外注化に繋げていないかという懸念が頭をよぎる。しかし、スタッフとして様々な葛藤を抱えながらも一貫して思うことは「母親が、心も体も元気でいてほしい」ということである。日々、めまぐるしく変化する社会環境の中でも、未来ある子どもたちのために、「ゆめの丘」を訪れた利用者が安心感を持ち、子育てする喜びを感じるよう、そして親子へ温かいまなざしを向け、共に子育てを見守ることのできる空間でありたいと日々支援している。

「ゆめの丘」のスタッフは保育士、幼稚園教諭の資格を有しているが、親子の関係を支援したり、保護者の身近な相談相手になったりする経験は少ないので、支援者研修会に積極的に参加し、スタッフの質の向上を図っている。利用者が徐々に「ゆめの丘」に居場所を見つけ、親として人として表情豊かになってくることは支援者として大きな喜びである。今後とも、利用者の声に耳を傾け、共感し、傾聴し、一方的な意見や考えを押し付けないようにしながら、利用者を笑顔で迎え入れ、送り出す支援を心がけたい。

また、センター便りを、年4回発刊し、「ゆめの丘」の支援の方向性と子育て親子への応援メッセージを伝えている。内容は利用者に気付いてほしいこと、イベントの意味、子ども理解へのエピソード、子育てへの激励と応援など子育て支援の様々なシーンを切り取って伝えている。

(3) 自然豊かな大学キャンパスを活用して

2017年度における利用者への聞き取りで、「“ゆめの丘”で過ごす時間が穏やかで親子ともに心地よく感じているが、その良さをもっとアピールするべきだ」との声があった。「良さ」とは何かをスタッフで話し合い、当たり前だと思っていた自然豊かで四季折々の変化がみられ、安全で学生の行きかう本学内の良さを改めて意識した。そこで、2018年に、「親子で散歩」を企画し、草花を摘み、池の鯉への餌やり、木の実を採取し、公園とは違う広い運動場を子どもの気の赴くままに思いきり走るなど、自然を活かした外遊びを親子とスタッフが一緒に楽しんだ。その中で、空の青さや小さな草花の愛らしさに気づいたり、池に泳ぐ鯉を探して歓声を上げたりなど、日常生活の中にある心動くことに出会う機会が、幼い子どもに必要な感性を育むことにつながることを利用者に伝えた。またこの企画を写真展示し、「ゆめの丘」で伝えた。このような写真展示は、「ゆめの丘」の日常やイベントでも実施し、利用者へ「ゆめの丘」の支援の在り方を伝えている。

その他、自然豊かな大学キャンパスを活かした取り組みとしては、「ゆめの丘菜園」における野菜の収穫などが挙げられる。2018年度には、5月にそら豆の収穫、7月にオクラ、ピーマンの収穫をし、家庭で食してもらった。10月には、お芋ほりとお芋パーティーと題して、「ゆめの丘菜園」の芋畑でさつまいもを親子で掘り、掘りあげたさつまいもを輪切りにし、ホットプレートで焼き、親子で食べた。これには、35名の参加があった。利用者からは、「甘くておいしいですね」との声が聞かれ、笑顔がみられ

た。堀った芋は、家庭でも食してもらえよう持ち帰ってもらった。

4-2 父親支援への取り組み：パパの育児参加の応援団として

「ゆめの丘」では、開所当時から父親支援を一つの柱としていたが、具体的な取り組みとして継続できていない。そこで2017年度から、毎月実施している第2土曜日のファミリーデーにおいて年2回、「パパと遊ぼう」を企画・実施している。

この父親支援は、いわゆる「イクメン」を育成するのではなく、父親と子との触れ合いを啓発していくことで、父親が母親とともに子どもの成長の喜びを共有し、共に子育てに参画し楽しむことを目的としている。内容は、父親と母親は敢えて別企画としている。2018年度の企画は、9月に「パパと遊ぼう ゆめわくわくりズム」と題して、「ゆめの丘」の広場で子どもと父親と一緒に遊び、母親には別室で「ママとセンター長の楽しいひととき」と題して、子育て講座や製作活動をした。

この企画では、「ゆめの丘」で定期的実施している「ゆめわくわくりズム」を通して、父親が体を存分に動かして子どもと触れ合うことを目的とした。小さい子が多かったが、父親は汗だくになりながら、手遊びやふれあい遊びをし、子どもと共に笑顔いっぱいひとときを過ごしていた。家族単位の参加は家族内だけの関係に終始し、関係が広がらないため、このときは父親と子どもだけで一緒に遊ぶことで、父親同士の会話が生まれるのではないかと考えた。父親同士の交流とまではいかなかったが、お互いに同じ時を、同じ場で過ごすことで子どもと一緒に過ごす喜びを共有できたと思われる。このイベントを継続し、父親の主体的な交流ができるように企画することが次回への課題となった。しかし、「パパと遊ぼう」は、子どもにとっても父親にとっても母親や妻を頼らず、お互いの関係を築く良い機会となったと考える。

一方、母親は別室でセンター長の子育て講座を聞き、子育ての中での自分の振り返りや、リフレッシュできることなどを自分の思いを言葉にして、子育てに頑張っている自分に対しての応援メッセージをしおりにする講習を受講した。そのしおりは、受講後に父親と共有してもらった。母親は子どもと離れて、自分だけの時間を過ごすとともに、子育て真っ最中の母親同士が互いの子育ての悩みや喜びを語り合う関係を築いていた。父親が子どもと汗をかきながら懸命に子どもと遊んでいる姿を垣間見た母親は、「楽しそう」「買い物の間くらいは任せようかな」「はじめは泣いていたけど、笑ってるわ。パパと一緒に喜んでる！」など、父親と子どもの関係に安心したようである。

「ゆめの丘」では、父親には母親の日常に関心を持って子育てに参画できるようにしてほしいと考えている。そしてその中で、夫は妻をねぎらい、妻は夫の手助けを喜び、互いを認め合える関係が築かれることを支援していくことが子育て支援であると考えている。今後も、継続して「パパと遊ぼう」といった父親支援企画を実施したいと考える。

5. 「ゆめの丘」子育て総合相談としての取り組み

5-1 大学教員による相談事業の概要

表5 「ゆめの丘」教員相談員一覧

教員名	専門領域（資格）	相談内容
島村知歩	調理学（栄養士）	食育相談
水野尚美 （2018年度前期）	生活支援技術（看護師）	健康相談
安永龍子 （2018年度後期）	在宅看護（看護師・保健師）	健康相談
佐々木隆夫	社会福祉・社会保障・社会福祉歴史 （介護福祉士・社会福祉士）	生活相談
別所崇	臨床心理学（臨床心理士・学校心理士）	発達相談

「ゆめの丘」では、開設当初より奈良佐保短期大学内にあることを利点とした、教員相談員事業を行っている。奈良佐保短期大学の教員の中で、保育・食育・健康・福祉・心理を専門とする教員が、月に1回相談日を設定して、「ゆめの丘」での相談業務にあたるという制度である。2018年度の相談体制は、表5の通りである。

なお、これらの教員相談員に加えて教員1名職員1名の計6名が、大学の組織として「子育て支援センターバックアップ担当」を構成し、「ゆめの丘」の開設当初から、その業務への連携・協力体制を構築している。

5-2 相談事業の現状

教員相談員による相談事業が、どの程度周知されているのか、どのような相談を利用者が希望されているのかを知るために、アンケートの項目に以下の3項目を掲載した。

問15：奈良佐保短期大学の教員による相談が受けられることを知っていますか。

問16：上記で「はい」を選択された方にお聞きします。実際に相談したことはありますか。

問17：すべての方にお聞きします。大学の教員の相談内容としてどのような内容があれば相談したいですか。（複数回答可）

その結果は、表6・表7の通りである。

表6 問15と問16の回答

問15 (n=53)	はい	いいえ	無回答
	44(83.0%)	7(13.2%)	2(3.8%)
問16 (n=44)	はい	いいえ	無回答
	11(25.0%)	33(75.0%)	0(0.0%)

表7 問17の回答内容

n=53

	人数 (割合)		人数 (割合)
子育て	21(39.6%)	子どもの食事や偏食	20(37.7%)
子どもの気になる行動	16(30.2%)	子どもの発達	15(28.3%)
離乳食	13(24.5%)	子どもの健康	11(20.8%)
仕事と保育園のこと	9(17.0%)	子どもの将来のこと (就園や就学)	9(17.0%)
食によるアレルギー	8(15.1%)	日常生活の困りごと	4(7.5%)
家族のこと (利用児の兄弟姉妹のこと, 夫婦関係など)	3(5.7%)	保護者の方自身のこと	3(5.7%)
その他	4(7.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの情緒を育てる暮らし方 ・子ども同士の年齢ごとの関わり合いについて ・その時々で行動など疑問に感じたことを聞いてほしい ・日常の子どもとの遊び方、おもちゃの選び方など工夫する点があれば知りたい 	

アンケート結果によると、周知度は83.0%と高率であるが、実際の相談経験は25.0%と1/4に留まっている。考えられる要因としては、月1回の相談日では、気になったことをすぐに相談できないということが挙げられる。従ってすぐに相談できる「ゆめの丘」スタッフとの役割の違いを明確にしていく必要があると考える。問17の回答によると、子育てや子どもの気になる行動、子どもの発達といった、「ゆめの丘」スタッフが対応できる相談も多い。その他の項目に挙げられた利用者の意見の中にも、「その時々で行動など疑問に感じたことを聞いてほしい」というものがあり、以前「ゆめの丘」でも取り入れていた、保護者の相談したいことを時間をかけて話ができる体制を整え、相談したい内容の多い分野に関して、相

談日を増やすという対応を考えていく必要もある。今後は、相談に結びつきやすい教員相談のあり方について、「ゆめの丘」スタッフとの協議を進めていきたい。

6. 学生の学びの場としての「ゆめの丘」

6-1 日常的な学生との関わり

「ゆめの丘」は、本学内にあることにより、学生が「ゆめの丘」の様子やそこに通う親子の様子を常に垣間見ることができる。実際に、学内を散策し、学食を利用している親子に対して、声をかけている学生がいたり、ボランティアとしてセンターで実習に近い経験をしたっている学生もいる。保育士・幼稚園教諭の資格取得を目指す本学地域こども学科の学生にとっては、毎日の学校生活で乳幼児やその保護者と触れ合える貴重な経験となっている。

6-2 「ゆめの丘」を利用した授業

「ゆめの丘」は、全学的な授業での利用にも常時対応している（「ゆめの丘」でのイベント実施時を除く）。地域こども学科のみならず生活未来科の授業での利用も行われている。特に両学科のフィールドでの利用が例年多く見られる。例えば、2018年度の取り組みとしては、地域こども学科では、「心と発達フィールド」が「ゆめの丘」とコラボレーションしたイベントを実施した^{注3)}。また、同フィールドでは、学生の学内実習として、絵本の読み聞かせ・手遊び・親子の触れ合い体験をし、積極的に「ゆめの丘」と連携している。また、「音楽フィールド」も、「ゆめの丘」見学と親子との触れ合い等、「ゆめの丘」を利用した学習を行っている。生活未来科では、「食物栄養コース食育フィールド」が、アレルギー対応食である豆乳蒸しパンを作る、「親子クッキング」を実施している。

また、地域こども学科「心と発達フィールド」では、授業の一環として2017年12月に「ゆめの丘」利用者に、学生のフィールド活動の取り組みについてアンケートを実施した。その結果、77.8%の方から学生が来ることについて“来てかまわない”という回答を得た(n=18)。その理由として自由記述を求めたところ、以下のような回答があった^{注4)}。

- ・学生の方達がおもちゃを作ってきてくれると、普段遊ばないような物もあるので子どもも喜ぶ。外でも一緒に走ってもらおうと子どもも喜ぶのでいいと思います。
- ・学生が直接子どもと接する機会は少ないと思うので、現場に出るまでにその機会が多い方がいいのではないかと思います。
- ・もっと子どもたちにたくさんの遊び方を教えてほしいと思う。
- ・子どもと遊んでもらえるのであれば子どもは喜ぶと思うので。
- ・学生さんと遊ぶことが楽しい。普段遊ばないような遊びをしてくれる。
- ・沢山のひととふれあう事は子どもにとっても良い事だと思うので。
- ・若いお兄ちゃんお姉ちゃん達と遊ぶのが楽しそう。

このアンケート結果から、学生の授業での利用に関しては、利用者から一定の評価を得ていることがわかった。今後は、上記に挙げた授業以外にも、「ゆめの丘」を利用した授業が展開できるよう、学内への周知を子育て支援センターバックアップ担当を中心として行っていきたい。

7. 「ゆめの丘」の課題

7-1 支援が必要な子育て世帯の利用促進

地域の子育て支援の中核として、「ゆめの丘」が必要な支援を提供できているのかということは、開設当時の懸念であり、現在も模索している。都南中学校校区の中には保育園が2か所（1園は2017年度からこども園に移行）あり、近隣の0歳児はほとんどが通園している。保育園（こども園）と連携を取りながら、通園せず地域で支援の手が及ばない子育て家庭を掘り起こそうと試みたが、保育園（こども園）においてもその実態は十分把握できておらず、実際の行動には至っていない。奈良市役所健康増進課との連携によって、乳幼児

健康診査の際に支援の必要な親子や、居場所を必要とする親子に「ゆめの丘」の情報の提供を依頼している。そのほか1歳児に実施されている「歯ぴか教室」や市役所内にある遊び場で親子遊びの提案・提供をしている「遊びのコツ」等で、「ゆめの丘」の広報を実施している。これらをきっかけに「ゆめの丘」を利用されることもあるが、この1～2年においては、支援が必要な親子の利用にはつながっていない。年齢の若い母親や、高齢出産した母親など、一見心身ともに健康に思える親にも何らかの悩みや不安があることも推測できる。今後とも「ゆめの丘」の周知に努め、真に支援の必要な子育て世帯に支援できる地域子育て支援センターであるよう努めたい。

7-2 利用者減少に対する取り組み

都南中学校校区にある子育て支援拠点や子育てスポット、サークルなどは「ゆめの丘」と同様に利用者が減少している。サークルを訪問した際、「利用者が少なくなり、運営が難しくなった」との悩みを聞き、「利用者がいる限り、サークルの存在意味はある」と互いに支援の意味を共有した。今後は、支援の在り方を再確認しながら、インターネットや広報誌などの活用を通じた「ゆめの丘」の周知、スタッフのスキルを活かしたイベントの実施、利用者のニーズを柔軟に捉えた利用方法、他の拠点との連携や実施内容の応用など積極的に取り組んでいきたい。

7-3 地域の人材を活用した子育て支援

自然が豊かな地域であるが、高齢化が進んでいるこの地域は、キャリアをもった人たちが一線を退いた後も自治会役員として活動し、「ゆめの丘」開設当時は、大いにその力に助けられた。しかし徐々に地域との関係が薄れ、地域からも「ゆめの丘」からも互いに連携を図ることはなく、現在に至っている。今後は、地域の自治会のみならず、民生委員や児童委員との連携を図り、地域に求められる子育て支援につなげたい。また、そのプロセスの中で、地域の情報や支援の必要な子育て家庭の把握にもつなげたい。まずは「ゆめの丘」から自治会へ働きかけ、広報誌の配布やボランティアの参加、民生主任児童委員を通して地域の情報を得るなど、積極的に動かねばならないと考えている。

7-4 大学内に位置する環境・人材のさらなる活用

開設当時の「ゆめの丘」は、相談支援の実際として、「環境を生かした子育て支援の取組」、「専門性のある大学教員の相談体制や講義講習の実施」「学生の学びの場としての役割」などをあげている³⁾。現在もその理念や体制は変わらないが、「環境を活かした子育て支援の取組」である豊かな自然環境も人材も活かされていらない。豊かな環境は4-1(3)で記述したとおりであるが、四季折々の豊かな自然環境やそれを活かし関わることの必要性を伝えきれていない。折りをみて外遊びに誘うことで、親の感性をくすぐり、自然や命の美しさや愛おしさを子どもに伝えられる親になれるように「ゆめの丘」は支援したいと考えている。人材については5-1で述べたように、教職員が「バックアップ担当」として「ゆめの丘」の運営に関わり助言をしたり、事務的には会計全般を担ったりはしているものの、短期大学での密な時間の中で教員や学生が積極的に「ゆめの丘」に関わる機会が少なくなっていることは否めない。利用者にとって、スタッフ以外の教職員や学生と出会い、会話をすること、遊びが提供されることは貴重な経験であり、学生との関わりを楽しみにしている利用者も多い。また学生にとっても、子育てしている親子の様子を身近に見て、会話をすることができる貴重な体験の場として「ゆめの丘」を活用できるように、今後、大学との連携を密にし、積極的な連携や関わりを「ゆめの丘」からも求めたい。

8. まとめ

本稿では、奈良市地域子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」の取り組みにおける現状と今後の課題について報告した。本稿の構成としては、利用者にアンケートを実施し、その結果と「ゆめの丘」における日常の取り組み、子育てを巡る現状分析と今後の課題を、和田(子育て支援センター長兼コーディネーター)及び大東(スタッフリーダー)が担当し、大学教員による相談事業と、学生の学びの場としての機能について、別所(地域こども学科教員)

が担当した。

前者については、現在の日本社会が置かれている、子育て支援の課題が浮き彫りとなり、今後ますます「ゆめの丘」をはじめとした、全国の子育て支援施設の必要性が感じられる。一方で、過当競争気味の状況が起きている中で、どのように差別化を図っていくのかが、「ゆめの丘」に求められている。後者については、大学教員による相談体制のあり方を考えるべきときにあるということと、学生の学びの場としての機能については、「ゆめの丘」よりも、奈良佐保短期大学として考えるべきことであることが示唆された。

本稿を通じて、奈良県の子育て支援の現状と、「ゆめの丘」が果たす役割について、理解が進むことを期待したい。

注釈

注 1) 奈良市は、市立幼稚園と市立保育所を再編し一体化することで“市立こども園”（幼保連携型認定こども園）への移行を「奈良市幼保再編基本計画・実施計画」に基づき進めている。これにより、奈良市立幼保連携型認定こども園の数は、2015年に7園であったのが、2018年には16園に増加している⁴⁾。

注 2) 「子ども・子育て支援法」第59条では、「市町村は、内閣府令で定めるところにより、第六十一条第一項に規定する市町村子ども・子育て支援事業計画に従って、地域子ども・子育て支援事業として、次に掲げる事業を行うものとする」⁴⁾とし、第1号で「地域子ども・子育て支援事業」を「子ども及びその保護者が、確実に子ども・子育て支援給付を受け、及び地域子ども・子育て支援事業その他の子ども・子育て支援を円滑に利用できるよう、子ども及びその保護者の身近な場所において、地域の子ども・子育て支援に関する各般の問題につき、子ども又は子どもの保護者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、関係機関との連絡調整その他の内閣府令で定める便宜の提供を総合的に行う事業」⁵⁾としている。

注 3) 2018年5月31日に、“れつつオアソビた〜いむ”と題して、スライム遊び・列車遊び・釣り遊び、の3種類の学生が考えた遊びを、親子で楽しむというイベントが行われた。

注 4) このアンケート結果については、2017年度地域こども学科総合演習「心と発達フィールド」(担当教員:中田奈月・別所崇)の2回生が実施したアンケートデータを利用した。

引用・参考文献

- 1) 奈良県:「奈良こどもすくすく・子育ていきいきプラン平成29年度進捗状況について」, <http://www.pref.nara.jp/secure/171697/H29puransintyoku2.pdf> (2018.11.30)
- 2) 厚生労働省:「利用者支援事業の実施について(実施要項)(平成30年6月27日)」, <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/law/kodomo3houan/pdf/h270717/t1-1.pdf> (2018.11.30)
- 3) 石田裕子, 石田伸子, 潮谷光人:「奈良市子育て支援センター「ゆめの丘 SAHO」からの報告」, 『奈良保短期大学研究紀要』, 21, pp.51-62 (2013)
- 4) 奈良市:「これまでの市立こども園への移行経緯:幼稚園と保育園を一体化した“市立こども園”ってなに?」, <http://www.city.nara.lg.jp/www/contents/1437459120759/index.html#市立こども園Q&A> (2018.11.30)
- 5) 内閣府:「子ども・子育て支援法」, http://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=424AC0000000065_20180401_430AC0000000012&openerCode=1 (2018.11.30)

付表1 相談業務日誌

No.	相談日	相談回数	相談者名	受付者	経路	奈良市報告項目	相談番号	票	気づいたこと、気になること、相談内容	対応内容	今後の対応
		初回									
		継続									
		初回									
		継続									
		初回									
		継続									
経路											
奈良市報告項目											
今後の対応											

付表2 個別相談シート

校区 ()			
児氏名	(ふりがな)	男 女	第 () 子 中
相談者氏名		続柄	母・父・祖母・祖父・ その他 ()
現住所		連絡先	- -
子ども	①発育②発達③健康面(皮膚トラブル、便秘、アレルギー、歯、予防接種、その他体調に関する事など)④病気障害⑤生活面(睡眠関係)⑤哺乳・離乳食(食事)⑥トイレトレーニング⑦しつけ、きょうだい関係⑧習癖⑨事故予防⑩その他		
保護者	①育児ストレス・育児不安その他メンタル②授乳・卒乳断乳③乳房トラブル、更年期障害など、体調に関する事④その他		
環境	①育児サポート②DV③経済困窮④仕事⑤その他		
その他	①医療機関情報②子育て支援情報③保育所幼稚園等進路④その他		
相談日	相談内容(上記番号を記入)	ジェノグラム(家庭状況)	
H / () : ~ :	子ども		
	保護者		
年齢 月齢	環境		
歳 ヲ月 日	その他		
基本情報			
主訴 (困っていること)			
アセスメント (解決したい課題の整理)			
利用者(家族) の強み			
目標になること 今後の対応・ 支援など	継続	<input type="checkbox"/> 面接傾聴 <input type="checkbox"/> 要経過観察 <input type="checkbox"/> 事例検討 <input type="checkbox"/> 関係機関に相談・ 連携	
	連携先	<input type="checkbox"/> 健康増進課 <input type="checkbox"/> 子育て相談課 <input type="checkbox"/> 医療機関 <input type="checkbox"/> その他	
	終了		

付表 3 利用者アンケート結果：「ゆめの丘」を实际利用した感想で「よかった、まあまあよかった」と回答した理由（自由記述）

遊びと環境	<ul style="list-style-type: none"> ・アットホームな感じで、子どもも場所見知りすることなく、手づくりおもちゃなどでも興味を持って遊んでいて、遊びの幅も増えたこと。 ・興味のあるおもちゃの参考にもなります。 ・おもちゃも絵本もたくさんあるので遊びの幅が広がった。 ・家ではテレビやビデオをつけてしまいがちだけど、ここではのびのびと遊んでいる姿を見ることが出来て嬉しかった。 ・色々なおもちゃがあるので、子どもが自分の好きなものを選んで、今興味のあるものが分かる。 ・子どもが興味を持てるような遊具やおもちゃが考えて置かれていて、遊びやすいし片付けやすい。 ・広いので、滑り台やウレタン積み木で遊べて楽しい。おもちゃも木の物が多くて、子どもが楽しんでいる。 ・いつもおもちゃが整頓されていて、きれいにしてあるので過ごしやすいです。 ・家に居ると積極的に体を使って遊ぶことが億劫になっているので。 ・とてのびのびと遊ばせることが出来る。未就園の子どもだけなので危ない遊びをする子もなくて安心できる。 ・子どもの年齢にあわせていろんな遊びが出来るので、のびのびと遊ばせることが出来てよかったです。 ・下の子を見ていてぐださるので、上の子と息いきり遊んであげることが出来る。 ・普段、子どもとどのように遊んだらいいか悩んでいたが、こちらでいろいろな遊びや歌を教えていただいているので、家でも参考に子どもと遊んでいます。また、他の子に興味深く観察できるのもいいと思います。もう少し大きくなったらお友達と一緒に遊べるのかなと今から楽しみにしています。 ・広い空間でのびのび遊べる。近所の公園にはない小さい子ども用のブランコや滑り台がある。第1子なので、ゆめの丘で他の子どもと関わって楽しそうです。 ・娘がのびのびと好きな遊びをしながら、笑顔を見ていることが私にとってもストレスなく居られてとても居心地がいいです。 ・子どもの遊びを制止しなくてもよく、のびのび遊ばせられる雰囲気がある。 ・家の保育環境が不十分で私自身がいつもストレスを感じています。ここへ来ると遊ばせられるし、家をこんな風に整えてあげたい。がんばろうと思えます。 ・ままごとセットが充実している。滑り台付近で体幹を鍛えながら遊べる。 ・スタッフと顔なじみになって子どもが安心して遊んでいるのがありがたく、お兄ちゃんの長期休暇の時一緒に利用させていただけるのも助かります。 ・お友達と一緒に遊んでいる姿が楽しそうだった。 ・家よりいろんな遊びができる。 ・子どもたちもゆめの丘に行くことが大好きで、いろいろなおもちゃもあり楽しく遊ぶことができています。 ・学内の広いグラウンドや池で遊べるのがよい。池に氷が張ったり、オタマジャクンがいたり、自然に触れ合える環境が素晴らしい。絵本も充実していて新しい本に出会える。 ・広くてきれいで安心して子どもを遊ばせられる。 ・広いので、少しづら走っても、小さな赤ちゃんだけ気にしてあげたらいいので安心できる。いっぱい遊具があって、子どもの興味がどんなものもいいのか分かる。 ・手作りのものが多く、季節感がありとても良い。
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんなイベントを企画して下さっているのでも、子どもも親も発見があり、勉強になることが多い。 ・イベントなどに参加することで、子どもと一緒に体を動かして遊べたのが嬉しかったです。 ・のびのびHOPPINGとゆめわくわくリズムに参加させて頂き、子どもとの遊び方や、関わり方を学ぶことが出来ました。家で遊ぶよりも子どもがのびのびと遊べて自分自身も気分転換になりました。 ・イベントが多くあるので気軽に参加できる。 ・ゆめわくわくリズムに参加して、子どもはもちろんで、一人で子育てをしていた自分も楽しめました。 ・開催されているイベントがいろいろあるのがよいと思う。自分の体調が都合によってなかなか来られず残念です。 ・親子クッキングを利用して、その後子どもが積極的に料理を手伝うと言ってきた。
スタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ・家では見られない子どもの様子や親以外の大人と接することが出来てよい時間が過ごせてうれしいです。 ・ばあばと触れ合う時間が少ないので、ばあば世代のスタッフの方と触れ合ういい機会だと思っています。安心感もあるし、子どもの反応を見ていて嬉しくなります。 ・家族以外と遊ぶ事が少ないので、スタッフが遊んでくれることが嬉しい。 ・子ども同士のかかわり、親同士のかかわりが持てるので、子どもも親も楽しい時間を過ごすことができる。 ・スタッフの方が子どもの姿を見ながら色々話をしてくれてほっとします。 ・顔を覚えていただいて、より利用しやすくなりました。 ・近くに親しい友だちなどもおらず、毎日家で過ごすことが多かったときにいつも行く笑顔で迎えてくれました。他の施設と違い、子どもとよく遊んでくれ名前を覚えてくれたことがとても嬉しかったです。 ・スタッフの方が優しい。 ・子どもが一歳前のころ、スタッフの方が見てくれている間にお手洗いにいったことが印象に残っています。ゆっくりすることが出来ないと思っていた頃なので。 ・スタッフの方々が親切にしてくださり、子どものことも見てくれてありがたかったです。 ・子育てで少し行き詰っている時に、話を聞いてもらって楽になった。悩んでいることを話すとすっきりした。 ・子育てや子どもの身体面での心配事の相談に乗ってもらえる。 ・スタッフの方が相談に乗ってくれた。スタッフの方が一緒に遊んでくれた。 ・スタッフの方が温かく迎えてくれる。 ・スタッフの皆様から子どもへの関わり方から多く学ばせてもらった。保育園、幼稚園選びの際、相談に乗ってもらった。 ・上の子の精神が不安定でひん尿の症状が出ていた時、親身になって相談に乗って下さりとてもありがたかったです。子どもの様子が親の方が不安になってしまっていたので専門職のスタッフに話を聞いていただけただけで気持ちが楽になりました。保育園の先生にはあまり話す時間が取れなかったりするの...。 ・家に帰ってからも、今日仲良く遊んだお友達の名前や遊んだ内容を楽しそうに話してくれた。名前シールがかわいくいつも大切にしている。 ・先生と話せて気持ちよくなる。 ・先生たちも相談を聞いて下さり、とても助かっています。 ・地元を離れての子育てなので、一緒に子どもたちを見守って下さるスタッフの存在が心強い。 ・トイレに行く時、ごはんを食べるときなどにスタッフさんが子どもを見てくれるので嬉しい。ずっと子どもとべったりなので、少しでも離れられると気持ちが楽になる。子どもの兆とした事や何気ないことも気軽に話せるので心が軽くなる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳室があって助かる。 ・施設もとてもきれいで安心です。 ・気楽で自由に遊べる環境がいい。 ・保育園に入っていないが、保育園のような施設であること。 ・清潔感がある。 ・ゆっくり過ごせる。 ・水筒の水がなくなったときお水がいただける。 ・明るい雰囲気。
大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・夏に菜園で育てた野菜を貰えて、子どもがとても喜んで家で食べてくれました。 ・上の子の精神が不安定でひん尿の症状が出ていた時、親身になって相談に乗って下さりとてもありがたかったです。子どもの様子が親の方が不安になってしまっていたので専門職のスタッフに話を聞いていただけただけで気持ちが楽になりました。保育園の先生にはあまり話す時間が取れなかったりするの...。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・オムツ替えが部屋の外でも出来たらいいなと思います。他の方が食事中で大便を変えるのに少し気が引けます。 ・未就学児も利用できると助かるなと思います。 ・子どもをほったらかしにして、ママ同士の会話に夢中になり、子供同士がトラブルになっても対応していないママがいる。 ・歩いて来れる距離だったらもっといいのと思う。